

<研究ノート>

エリック・ンティリ・メンサの選挙 —2012年ガーナ大統領選挙の一側面—

浜田 明範*

要旨

2012年12月7日に行われたガーナの国政選挙は、その結果をめぐって多少の緊張が起こったものの、大規模な混乱が起こることなく一応の決着がつきつつある。前回の総選挙に続いてNDC (National Democratic Congress) が極めて僅差で勝利したにも関わらず、また投票の正当性をめぐって異議申し立てがあったにも関わらず、暴力的な混乱が起きなかったことはガーナの複数政党制の安定性の証左と言える。

本稿では、このようなガーナの大統領選挙に関する大まかな動向を超えて、人々がどのように選挙を経験するのかを記述していく。この作業を通して、ガーナにおける国政選挙の特徴として、(1) 選挙に対する表向きの熱狂の裏で政治に対する閉塞感があること、(2) 選挙活動が娯楽として楽しまれていること、(3) 国会議員に対して利益誘導が重視されていること、の三点を指摘し、大統領と国会議員、有権者の関係性を考えるための一つの手がかりとして「スカートとブラウス」という現象の重要性を示すことが本論の目的である。

キーワード： 選挙、独立候補、スカートとブラウス、ガーナ

目次

- I エリック・ンティリ・メンサとは誰か
- II エリック・ンティリ・メンサの戦略
- III 娯楽としての選挙
- IV 選挙の日
- V スカートとブラウス

I エリック・ンティリ・メンサとは誰か？

「私たちは喧嘩しないよ。何で？（暴力的な混乱を）恐れているの？ *Yenkun. Yenkun, Aden? Wusuro ana?*」。2012年10月に「来月からそちらに行くよ」と電話かけたとき、塗

* 国立民族学博物館機関研究員

装職人のマイク¹は冗談めかしながら、しかし真剣な声で「大丈夫だから安心して来い」と伝えてきた。2005年よりガーナ南部のプランカシ (Pramkese) という田舎町で調査をしてきた私は、この年の12月にガーナで四年ぶりに行われる国政選挙²に立ち会うつもりでいた³。

アフリカの選挙というと、その結果をめぐって暴力的な混乱が起きることを心配する声が少ない⁴。今回のガーナの国政選挙についても、ガーナ国内では平和がいかに大事なのか、選挙の結果を受け入れることの大切さが繰り返し報道されていた。しかし、マイクと同様、私も選挙の後で暴動やクーデタが起きる可能性は高くないと考えていた。

前回、2008年に行われた国政選挙では、当時の野党であるNDC (National Democratic Congress) の大統領候補ジョン・アタ・ミルズ (John Atta-Mills) が、与党であったNPP (New Patriotic Party) のナナ・アクフォ・アド (Nana Akufo-Addo) を決選投票の末破っていた。得票率50.23%という僅差でのNDCの勝利は、NPPの支持者にとってそれほど受け入れやすいものではなかった。決選投票に至る前の一回目の選挙では、ナナ・アクフォ・アドは得票率49.13%で第一位につけており、当選に必要な50%まで後わずかというところまで迫っていたからだ [Ephson 2009]⁵。しかし、このような状況でも、2008年まで大統領を務めていたNPPのジョン・アジェクム・クフォー (John Agyekum Kufuor) が選挙結果を受け入れる声明を出したこともあって、暴力的な混乱は起きなかった [Gyimah-Boadi 2009; Jockers, Kohnert and Nugent 2009]。

そのため、2012年の選挙がどんな結果になっても、それほど大きな混乱は起きないだろうというのが私の判断だった。もちろん、実際には何が起きるかわからないという危機感も常に燻ってはいた。だからこそ、ガーナに渡航する前にマイクをはじめとするプランカシの人々に電話で状況を確認したのだった。

2012年11月22日にガーナに入国した私を、マイクは空港で出迎えてくれた。いつもは調査地から迎えが来ることなどないのだが、この日は選挙とは関係ない諸々の事情のため

¹ 本稿では、政治家以外には匿名を用いる。

² 後述するように、ガーナの大統領選挙は、一院制をとる国会議員の選挙と同時にされる。本稿では大統領選挙と国会議員の選挙の両方を「国政選挙」、あるいは「選挙」という言葉で一括して指し示すことにする。

³ 落合 [2002] が整理しているように、アフリカ諸国では1980年代までクーデタなどの非合法的な手段による政権交代が一般的であった。ガーナでも、1966年から1981年にかけて計5回のクーデタが起きている。その後、1992年に成立した第四共和制のもと2008年までに5回の国政選挙が平和裡に実施されている。ガーナにおける第四共和制の成立とその後の展開については以下の論考 [高根 1993, 2001, 2003; Nugent 1999, 2001a, 2001b; Gyimah-Boadi 2009] に詳しい。

⁴ 近年、選挙が大規模な混乱に結びついた例として、2007年のケニアや2010年のコートジボアールで実施された大統領選挙を挙げることができる。

⁵ 2000年以降のガーナの大統領選挙は実質的にNDCとNPPの二大政党の候補者による一騎打ちで争われている。なお、1992年、1996年の選挙ではNDCのジェリー・ローリングス (Jerry Rawlings) が、2000年と2004年の選挙ではNPPのクフォーが勝利している。

に、特に彼と私の個人的な事情のために彼が迎えに来ることになっていた。マイクは、プランカシのタクシー運転手であるジョーを引き連れており、私たちは彼のタクシーで直接プランカシに向かうことになった。中国の建設業者によって長いこと続けられていた首都アクラ (Accra) の北の玄関口周辺の道路の整備は終わっており、いつも悩まされていた渋滞もその日は無いようだった。それでも、直線距離で 70km ほどあるプランカシまでは約三時間半かかった。道の補修が進んでおらず、至る所でアスファルトがはがれて大きな穴が開いているのが原因だった。

プランカシは 18 歳以上の人口が 2,500 人程度の小さな町であり、行政区域としては、イースタン州 (Eastern region) クワエビビリム郡 (Kwaebibirim district) に属し、選挙区としては郡庁のあるカデと同じカデ選挙区に属している。プランカシで暮らす人々の多くは地主層であるアチム (Akyem) の人々であり、住民の大多数はキリスト教徒である。プランカシ周辺の主要産品は、カカオ、オレンジ、アブラヤシ、木材、ボーキサイトであるが、アクラや海外へ出稼ぎに行っている人からの送金も無視することのできない重要な収入源となっている。換金作物や鉱物のとれるこの地域は、ガーナの中では比較的裕福な地域でもある。

タクシーの中では、自然と今度の国政選挙について話が及んだ。2008 年の大統領選挙で勝利したミルズは 2012 年 7 月に病気で亡くなっており、副大統領だったジョン・ドラマニ・マハマ (John Dramani Mahama) が後を継いで大統領となり、そのまま今回の大統領候補として立候補していた。それに対するのは、2008 年の選挙で敗れた NPP のアクフォ・アドである。

イースタン州に住んでいるアチムの人々の多くは NPP の支持者である。NPP はアサンテ (Asante) とアチムの間で特に強い勢力を誇っていることで知られている。アチムが多数派を占めるカデ選挙区では前回の選挙でもアクフォ・アドは 68.68% の得票率を得ていた [Ephson 2009: 40]⁶。マイクが NPP の支持者であることを知っていた私がアクフォ・アドの名前を出すと、マイクは満足気な顔をしていた。しかし、同じく NPP に所属しているカデ選挙区の現職の国会議員であるオフォス・アサモア (Ofosu Asamoah) の名前を出すと、マイクは不意に次のように言った。「俺たちは、オフォス・アサモアをやめた。新しいのが来ている。エリック・ンティリ・メンサ (Elic Ntili-Mensah) だ」。

四年ごとに行われるガーナの大統領選挙では、並行して各選挙区から一名ずつ選ばれる国会議員の選挙も行われる。そのため、各選挙区の国会議員候補は大統領の支持者として選挙運動を展開しつつ、国会議員の選挙では自分に投票するように呼びかけることになる。

⁶ 1992 年以降の大統領選挙においては、アサンテが多数派を占めるアシャンティ州 (Ashanti Region) で NPP が、エヴェ (Ewe) が多数派を占めるヴォルタ州 (Volta Region) で NDC が安定的に支持を集めている。これらの州におけるいわゆる「部族主義」的な傾向は 2008 年以降強まっているという指摘もある [Gyimah-Boadi 2009; Jockers, Kohnert and Nugent 2009]。

逆に言えば、国会議員が自分に投票を呼び掛けながら自分の党の大統領候補にも投票するように呼びかけることになるのだが、基本的には党の顔である大統領候補の方が知名度も人気度も高い。

私は 2009 年にオフォス・アサモアに会ったことがあった。彼は、安定した収入のあるガーナの男性によくあるように、大きなお腹を抱えていたが、まだそれほど年を取っているようには見えなかった。NPP はそんな彼の代わりに新しい候補者を立てたというのか。それは、少し奇妙に思えた。同時に、ガーナの政党において国会議員の引退や候補者の交代がどのように行われるのか、興味を抱いた。

「オフォス・アサモアをやめた」理由について、マイクは次のように語った。「彼は何もしなかった。私たちに何もくれなかった。ただ、飯を食っていただけだ。12 年間も自分だけで」。このマイクの発言には、ガーナ南部で広く共有されている前提、「国会議員の仕事は私たちに何かをくれることだ」という前提が明確に表現されている⁷。このいわゆる「利益誘導型」の政治観を共有するならば、なるほど確かにオフォス・アサモアのこれまでの行いは支持をやめる理由として成立するのかもしれない。

夕方、プランカシに着いた私は、町のあちこちにエリックのポスターが貼られていることに気が付いた。明らかに多数派はエリックを支持しており、人々はエリックがキャンペーンに使用している歌を陽気に歌いながら道端で騒いでいた。にもかかわらず、電柱に掲げられた政党の旗の約半数は NDC のものであり、圧倒的に NPP の旗が多かった他の町と微妙に違う雰囲気醸し出してもいた。

私をはじめてエリックに会ったのは二日後の 11 月 24 日、土曜日のことだった。この日は町のあちらこちらで、全部で四つの葬式が行われていた⁸。そのうちの一つ、町の中心にある葬式広場で行われていた友人の母親の葬式に参加している時、「ほら、あれがエリックだよ」と教えられた。なるほど、背が高く、やや色が薄い、好青年のように思えた。今年 35 歳になるエリックは、アクラ近郊のテマにある建設会社で道路を作る仕事に携わっているという情報もこのとき得られた。

週明けの月曜日、友人たちと一年ぶりの再会を祝うために挨拶回りをしていた私は、ヘルスセンターの看護師たちを訪ねた。久しぶりに会った彼女らと旧交を温めつつ、まったくとした時間を過ごしていると、やはり選挙のことが話題に上った。そのとき、よくしゃべる看護師の一人が私に衝撃的な事実を教えてくれた。「エリック・ンティリ・メンサは NPP の候補者ではないよ。彼は個人で立候補した独立候補だよ」。

⁷ ガーナの国会議員に利益誘導が求められており、また、国会議員が利益誘導を行っていることについては、リンドバーグの論稿 [Lindberg 2010] に詳しい。

⁸ 詳細は割愛するが、ガーナ南部では葬式の日程を調整することが可能であり、人々が参加しやすい土曜日や日曜日に行われることが多い。

II エリック・ンティリ・メンサの戦略

謎は瞬時に解けた。オフォス・アサモアは引退なんかしていないし、NPP は国会議員候補者を変更してもいない。まだ 43 歳になったばかりの壮年の偉丈夫で、老人というには程遠い現職の国会議員を候補者から外す理由が無い。エリック・ンティリ・メンサは、政党に所属しない独立候補として、オフォス・アサモアに勝負を挑んでいたのだ。現職の国会議員でもあるオフォス・アサモアは前回の選挙で 58.2% (22,081 票) を得ている。新人のエリックにとっては強敵である。しかし、よい兆しもあった。プランカシに NDC の旗が多かったのは、独立候補のエリックの出現に伴って NPP とオフォス・アサモアの影響力が減退していることを、目に見える形で示すものだった。

とはいえ、大統領選挙と国会議員の選挙が同時に行われるガーナにおいて、独立候補の不利は明らかである。政党に所属している候補者たちは、大統領候補とともに作ったマニフェストで政策を主張することができる。また、大統領候補者の動向はニュースや新聞を通じて連日報道される。実際、2008 年の選挙では全 230 の選挙区のうち、独立候補が議席を獲得できたのは四つに過ぎない（独立候補が立候補した選挙区は 74、立候補者数は 95 に上る）[Ephson 2009]。

NPP の支持者でもある先述の看護師が、エリック・ンティリ・メンサとそれを支持するプランカシの人々に対して辛辣な言葉を投げかけたのも無理はない。「エリックはまだ子供だ。当選できるわけではない。彼らはダメになっている。彼らは NPP の支持者なのに、NPP をダメにする」。このようなエリックに対する評価は、プランカシの町中ではおおびらに語られることは無い。町の中心部から少し離れたところに建てられ、町の出身者ではない者たちが働くヘルスセンターであったからこそ、彼女もこのような直截的な論評を行うことができたのだろう。彼女の言葉を待つまでもなく、エリックが国会議員に当選することはそれほど容易でないことは明らかだった。そんな中、エリック陣営がとった戦略は大きく三つに分けられる。

まず、エリックは彼がプランカシの出身者であるということを最大限利用した。人々は、事ある毎に「プランカシ出身者が国会議員になることはすばらしい」と口にしてきた。それだけではない。エリックがプランカシ出身であるということは、彼の親族が多数プランカシで暮らしていることも意味している。その中には、小学校の校長を務めていた叔母や多くの人望を集めている町の有力者が含まれている。彼らは、もともと NPP の支持者であり、中でも有力な支持者でもあったのだが、その鞍替えはそれなりに大きな影響を与えていた。私の甥が、従兄が、母方の伯父が立候補している。助けてほしいというのである。

もちろん、このような親族や友人のネットワークを活用するだけで選挙に勝るとは、エリック陣営も思っていなかった。プランカシの有権者は、カデ選挙区全体の 5% に過ぎない。選挙で勝利するためには、プランカシを超えて支持を広げる必要があるし、それには、「私の息子を助けてくれ」ということ以上の理由が必要なのは明らかだった。

そこでエリックが採用したのは、現状に対する変化に訴えかけるものであった。エリックのキャッチコピーである「変化のために立ちあがれ stand up for change」は、単純にアメリカ大統領のオバマをまねたものではない。変化が必要であるという感覚は、エリックの同年代とそれより下の世代に確かにアピールするものであった。先述のように、アチムやアサンテが多数派を占めるカカオ農村地帯は NPP の票田となっているが、若い世代の中には NPP と NDC を軸とする二大政党制に閉塞感を抱く者も少なくない。「ガーナには二つしかない。コトコとハーツ⁹、NDC と NPP。でも私はどちらも好きじゃない」。エリックはこの閉塞感をうまく味方につけることで、若年層の支持を広げようと試みていた¹⁰。

この政治に対する閉塞感は、選挙の争点の少なさによっても増長されていた。NDC も NPP もマニフェストを作成し、それをネット上で配布していたが、政策上の争点はもっぱら NPP が三年前から選挙の目玉として計画していた高校無償化についての議論に限定されていた。NPP が高校無償化のために支持してくれと訴えたのに対し、NDC は NPP の高校無償化政策には予算的な裏付けがなく実現性が低いという主張を行っていた。もし本当に高校を無償化したら教室も教師も足りなくなる。だから、今やるべきは高校の無償化ではない、全体的な教育の質をあげることだというのである。

NPP の支持者たちによると、別に高校を無償化しても NDC が主張するように急に高校生が増えて教室や教師が不足することは無いという。なぜなら、高校に入学するためには試験をパスする必要がある、その数はそんなに急には増えないからだ。実はこのことは、一見中立的に見える両者の教育政策が、NPP と NDC の支持層の違いと緩やかに関連していることを意味している。NPP の高校無償化政策はすでに試験に合格できる層に有利に働くのに対し、NDC は試験に合格できない者への対策をも含んでいる。一概には言えないものの、NPP の支持者の多いアシャンティ州とイースタン州は高校の数も多く、教育熱の高まりもあって多くの者が試験に合格できると考えられる。NDC の支持者の多い北部地域では、教育に対する意識がそれほど高くないという報告もある [GOG 2011: 31, 61-2]。

大統領選挙の実質的に唯一の争点がこのような利益誘導に関わるものであることは、政治的なスタンスが選挙の争点となっていないことを意味しており、NPP も NDC も似たようなものという認識を人々に与える¹¹。特に、自分の子供や兄弟姉妹が高校に通うための資金を拠出する予定の無い多くの若年層にとって、高校の無償化は自分に差し迫った問題とは言えない。

⁹ コトコとハーツは、それぞれクマシ (Kumasi) とアクラを本拠地とするサッカーチームである。両者はガーナを二分する人気を全国的に誇っている。

¹⁰ イースタン州において政治に対する閉塞感が確かに存在することは、2008 年の大統領選挙においてイースタン州の投票率が低かったために NPP が勝利を逃したというエフソンの分析 [Ephson 2009] とも符合する。ただし、アシャンティ州の投票率がむしろ不自然に高すぎたという分析もなされている [Jockers, Kohnert and Nugent 2010]。

¹¹ 2000 年の大統領選挙の分析を行った高根も、NDC と NPP の経済政策にそれほど大きな差がないことを指摘している [高根 2001, 2003]。

最後に、エリックは、NPP の候補者であるオフォス・アサモアの作成したパンフレットに対する極めて有効なネガティブ・キャンペーンを行っていた。オフォス・アサモアは NDC が政権を担っていた 23 年間に比べ、自身の所属する NPP が政権を担っていた 8 年（2000-2008）の間にいかに地域のインフラが発展したのかを強調する。カデヤプランカシを含めた選挙区内の主要な町においていかに多くの公共施設が作られたのか、町ごとに道路や水道、学校の写真を掲載することでアピールし、それらの施設の建設が NPP と彼の指導の下に行われたと主張したのである。換言するならば、NPP とオフォス・アサモアは、いかに自分がこの選挙区に利益を誘導してきたのかを周知するためのパンフレットを作製したのである。

プランカシのページには、水道塔、太陽光発電による街灯、中学校の新校舎、葬式広場、公衆トイレ、市場といったここ数年の間に建設、あるいは整備された施設の写真が並んでいる。それらの施設は、それぞれ異なる経緯で作られている。水道塔は 2007 年 5 月にドイツとイギリスの NGO が費用の 85% を支援することによって建設されたものである（10% は郡庁が、5% はプランカシの人々が負担した）。中学校の新校舎も NGO の支援によって作られたという。太陽光発電による街灯は町出身の資産家がプランカシの人々のために寄付したものである。葬式広場と市場は、オマーン・エジュマと呼ばれる町の人々の共同によって作られた¹²。公衆トイレに至っては、数十年前に作られ、もう長いこと使用されていない。

つまり、オフォス・アサモアが誇らしげにパンフレットに掲載しているプランカシの公共施設の建設に彼や NPP はほとんど関与していない。確かに、オフォス・アサモアはそれらの施設を「彼が建設した」とは書いていない。しかし、「彼の指導の下に達成された」と誇らしげに提示したとしても、それは我田引水の誇りを免れえないだろう。葬式広場や市場を作るために労働したプランカシの人々が、その建設をさも自分の手柄かのように喧伝するやり方に共感できないのも無理はない。だから、エリックの支持者たちは、「NPP はいけれど、オフォス・アサモアは私たちに何もくれていないし、嘘つきだ」と明確に主張することができたのである¹³。

III 娯楽としての選挙

政治に対する閉塞感が確かに存在する一方で、一般的に言ってガーナの大統領選挙は驚くほど盛り上がる¹⁴。多くの人々にとって国政選挙は楽しいものでもある。ガーナでは、選挙活動は「キャンペーン」と総称される。この中には、選挙カーを使ったものや広場での

¹² オマーン・エジュマについては拙稿 [浜田 2012] を参照せよ。

¹³ 地理的には、エリックは、プランカシの他に、カデ選挙区を中心であるカデではなくその次に人口の多いアスオム (Asuom) に力を入れていた。正確なデータは無いものの、選挙の結果から類推するに、アスオムではエリックは一定の成果を上げたようである。

¹⁴ 選挙管理委員会 (<http://results.ec.gov.gh/>) の集計によると、2012 年の大統領選挙の最終的な投票率は 80.15% に上った。

集会だけではなく、個人的に誰々に票を入れてくれと頼む行為も含まれる。

静かだが、おそらく最も一般的なキャンペーンは T シャツを使ったものである。候補者たちは、前面に自身の顔写真を、背面にはキャッチコピーをプリントした T シャツを大量に作り、それを支持者たちに配布する¹⁵。支持者たちは、その T シャツを着て日々を過ごすことで、候補者と政党の宣伝をする。理念的には、特定の候補者の T シャツを着ている人はすべてその候補者の支持者であるとされるが、実際には必ずしもそうではないことは誰もが知っている。T シャツはキャンペーンの一環であると同時に、日常生活に欠かせない衣服でもあるからだ。弱小政党である PPP (Progressive People's Party) の T シャツを着た NPP の支持者が、他の NPP の支持者と一緒に NPP を支持する雄叫びをあげるのは、数ヶ月に及ぶ選挙戦の中ではさほど珍しくない光景となっている¹⁶。



図1：エリックの選挙カー（2012年12月1日筆者撮影）

T シャツが静かなキャンペーンだとするならば、キャンペーンの中でも一際目立つのが選挙カーを使ったものである。選挙が近づいてくると、大統領や国会議員の候補者の顔写真

¹⁵ リンドバーグによると、キャンペーンで配布される T シャツの量は選挙の度ごとに多くなっているという [Lindberg 2010: 124]。

¹⁶ T シャツを宣伝媒体として利用することは、選挙に限らず、ガーナでは一般的である。

を張り付けた選挙カーが音楽を流し、あるいは、小型トラックの後ろにブラスバンドを載せて音楽を奏でながら町をゆっくりと移動していくのを頻繁に目にする事ができる。人々は、その音楽に合わせて歌を歌い、ダンスをしながら、選挙カーの後ろについて行進する。普段ならば、熱帯の太陽を避けるために出歩く人も少ない午後のひと時、音楽に合わせてダンスをしながら支持する政党や候補者のキャッチコピーを叫びながら熱狂し、行進することは、確かに楽しいものである。

キャンペーンはまさに熱狂しながら行われるので、ガーナにおける選挙活動を目にした人は、いかに彼らが真剣に選挙をしているのかに感銘を受けるかもしれない。しかし、選挙活動を楽しむことと、特定の政党を支持することは必ずしも一致しない。理念的には、選挙カーの後ろで踊りながら歌を歌い、選挙カーに向かって手を振る人々はそれぞれの政党や候補者の支持者であるとされる。しかし実際には、自分が支持する政党や候補者とは異なる場合でも、一緒になって騒ぐ者も一定数いる。彼らは真剣にキャンペーンを楽しんでいるが、必ずしも政治的に真摯であるとは限らないのである。

選挙カーでのキャンペーンに比べると、集會に訪れる者は実際の選挙においても候補者に投票する可能性が高いとされる。音楽を奏でながら向こうから勝手にやってくる選挙カーと異なり、広場で行われる集會には自分から行かなければならないからである。とはいえ、広場での集會も基本的に楽しいものであることに変わりはない。集會が行われる日は、朝から広場にテントが張られ、昼過ぎから太鼓が叩かれる。本格的な活動が始まるのは日差しが陰り始める夕方になってからである。

広場で行われる集會には、その町で暮らす人々だけではなく、選挙区内の他の町からも人が集まってくる。このときの交通費は、基本的に政党や候補者によって負担される。候補者がタクシーやミニバンをチャーターし、支持者たちを集会場へと誘うのである。

夕方、他の町からの支持者が集まってきたのを見計らって、集會のメインイベントが始まる。音楽や太鼓の演奏が中断され、広場に設置された演台の上で、支持者たちが演説を開始する。しかし、依然として馬鹿騒ぎは続き、広場は喧騒に包まれ続ける。人々は、演台で誰がしゃべっていてもお構いなしに、ブブゼラや笛をならし、勝手気ままに歌を歌い、叫び声を上げる。候補者が演台上でしゃべっている時さえ、広場の後方では同じような光景が繰り広げられる。

候補者の演説が終わると再び大音量で音楽がかけられ、この喧騒の中で、異なる町からやってきた支持者はそこで久しぶりに会った人やはじめて出会った人とダンスを楽しむ。それは、男女の出会いの場でもある。選挙は、恋愛の機会を提供してくれる。しかも、交通費まで出してくれる。

日が沈むと、広場での集會は終了し、再び選挙カーを使った行進が行われる。選挙カーの後ろで踊っている支持者たちは、道端の屋台で食べ物を売っている者や楽しげに歓談している人々に対し、ときに粗暴と思えるような態度で候補者への支持を訴えかける。それ

に対し、人々はあからさまな言葉をかける。「カネをくれ。投票するからカネをくれ。朝から何も食べてないんだよね。ちょっと、揚げたヤムイモを買いに行くからカネをくれ」。

ガーナの大統領選挙において、このような「直接的な要求」が行われることはそれほど珍しいことではない¹⁷。この背景には、国会議員の月々の給料が 7,200 ガーナセディ（2012 年 12 月のレートで約 3,790US ドル）であることを、皆が知っていることがある。新任の中学校の教師の給料が 300 ガーナセディ程度であり、比較的優遇されているとされる 20 代の看護師の月給が 800 ガーナセディ程度であることを考えると、農村部で暮らす人々にとって 7,200 ガーナセディというのはいかにも巨大な金額である。

ただでさえ、カネを持っている人は分け与えるのが理想的とされている [浜田 2010] 中で、投票によってそれだけの金額が動くのであれば、有権者や支持者に分け与えるのは当たり前のことである。人々はそう考える。先述したオフオス・アサモアのパンフレットにも、彼がコンピューターやジャージを学校に寄付したことが誇らしげに記載されている。

選挙は、T シャツと馬鹿騒ぎの機会と出会いの場とわずかなカネを提供してくれる。それだけでも十分に楽しいものである。しかし、サッカーの試合と同じように、特定の党や候補者との同一化は、選挙という勝負をより楽しむことに繋がる。しかし、選挙をより楽しむための同一化の機会は誰にでも平等に与えられるわけではない。それぞれの候補者も、より影響力のある人間に優先的に利益を供与し、運営に携わせようとするからである。そのため、NPP のような強力な地盤を持つ既成政党の場合、「長老たち *panyn fɔ*」と呼ばれる老人に優先的に便宜が図られる一方で、若者たちが選挙を楽しむ機会はより限定されている。このことは、エリックが若年層によりアピールした理由の一つにもなっている。新人の独立候補であるエリックは、多くの若者たちに娯楽としての選挙を楽しむ機会を提供したうえ、選挙戦を運営する楽しみをも提供していたからである。

IV 選挙の日

投票日が近づいてくると選挙カーや集会を用いたキャンペーンの頻度も増え、町全体が馬鹿騒ぎの雰囲気であふれるようになる。もちろん、この雰囲気を誰もが好むわけではない。「彼らは迷惑だ。後二日すればすべては終わり、町は静かになる」という声も少なからずある。

2012 年 12 月 7 日は金曜日であり、選挙のために全国的な休日となっていた。そのため、前日の木曜日の夕方には、続々とプランカシ出身者が町に戻ってくる。ガーナでは、有権者は事前に登録した投票所で投票する。そのため、プランカシで投票する人は、必ずしもプランカシで暮らしている人々だけではない。首都のアクラに出稼ぎに行っている人も、日々を過ごしている近所の投票所ではなく、出身地であるプランカシで投票することもで

¹⁷ PPP や UFP (United Front Party) といった弱小政党は、投票に伴う金銭的なやり取りを批判する声明を出している [Daily Graphic Dec 5 2012; Dec 6 2012]。

きる。18 歳以上に投票が認められているため、普段は各地にある高校に併設された寮で過ごしている高校生たちも帰ってくる¹⁸。

そのため、木曜の夜から日曜日にかけて、プランカシはいつもより多くの人に溢れ、それだけでも賑やかな、どこか楽しいな雰囲気にも包まれる。このように一斉に故郷に人々が帰ってくる機会はクリスマスやイースターに限定されるため、四年に一度の選挙は、旧知の友人と再会し、旧交を温めるための貴重な機会も提供してくれる。そんな、どこか浮ついた夜が明けるといよいよ選挙が始まる。

投票時間は、朝の 7 時から夕方の 17 時までの 10 時間である。プランカシでは、互いにかほど離れていない町の中心部付近に全部で六つの投票所が設置された。各投票所には、選挙管理委員の他、各政党や候補者によって推薦された見届け人も常駐し、不正が行われないか監視にあたる。また、不測の事態に備えて、銃を構えた警察官や応援に来ている軍人が警備にあたる。各投票所では、朝から人々が長い列を作る。今回の選挙から導入された指紋を用いた生体認証による本人確認が済むと、いよいよ投票に臨むことができる¹⁹。

選挙には、友人や親族と連れ立って訪れる人が多い。中には、明らかに着飾って町を何度も往復しながら投票所を訪れる妙齢の女性もおり、年配の女性たちから「あの子たちは病気だ」と陰口を叩かれ、時に公然と叱責される。しかし、彼女たちはどこ吹く風である。多くの出身者が町に戻ってくる選挙は、首都でそれなりにいい稼ぎをしている男に見初められるチャンスでもあり、それはプランカシから抜け出すチャンスでもある。

正午も近くなると、各投票所の行列も解消され、選挙を済ませた人々は思い思いに休日を楽しむ。投票所の選挙管理委員や見届け人には、政党や候補者から昼食や水が届けられる。強烈な熱帯の日差しを避け、風を楽しみながら静かな午後が過ぎていく。

投票が締め切られる頃になると、人々は再び投票所に集まってくる。そして、選挙で最も盛り上がる瞬間を待つ。17 時を過ぎると選挙管理委員は投票を締め切り、その場で投票箱を開け、開票を始める。集まった人々がきちんと目で確認できるように、投票用紙を掲げながら、それぞれの候補者がどれだけの票を獲得したのか、大きな声で数えはじめる。人々は、ざわめきながら、票が数え上げられていく様子を見守る。ときに選挙管理委員が数え間違えると、同僚や周囲で聞いている者が訂正する。他の投票所と後で照合するつもりなのだろう、各候補が何票獲得したのか紙にメモする者も散見される。大統領選挙の投票が数えられた後、国会議員選挙の投票が数えられる。それぞれの選挙の候補者毎の結果は専用の複写式の用紙に書き込まれ、各候補者の見届け人に渡される [高根 1993a]。

プランカシの各投票所では、エリックの支持者たちも開票作業を見守っていた。大統領

¹⁸ ガーナでは 18 歳以上の高校生はそれほど珍しくない。高校には 4 年通うことになっているため、一般的に 20 歳強で高校を卒業する者が多い。

¹⁹ この生体認証を通過できず、投票せずに帰る人もわずかながらいた。今回の選挙で導入された生体認証では 3,000 人が投票できずに終わった郡もあるという [Daily Graphic Dec 8 2012]。

選挙では NPP のアクフォ・アドが優勢なことが分かる。しかし、思っていたよりも NDC のジョン・マハマへの投票も多いようだ。いよいよ国会議員選挙の開票が始まる。立候補順に票が数えられ、最後にエリックの票が数えられる。エリックの票数がオフォス・アサモアの票数を超えると大きな歓声上がる。一つの投票所で結果が明らかになると、支持者たちは歓声を上げながらまだ開票の終わっていない投票所へと向かう。そして、最後に開票が済んだ投票所を含めてすべての投票所でエリックが勝利したことが分かったと、選挙権を得たばかりの年若い支持者たちは大きな歓声を上げ、町を行進し始めた。

その頃、エリックの選挙事務所では、たんとんと情報収集が続けられていた。プランカシの結果はわかった。では、他の町ではどうか。他の町や村に住む知り合いに携帯で電話をかけ、各投票所での得票数がいくつだったのか、調べるようお願いし、報告を待つ。結果は期待はずれだった。プランカシでは他の候補者を圧倒したエリックも、その他の町や村に設置された投票所では、ひどい所では一桁、ましな所でも二桁の得票を獲得するのがやっとだった。21 時までには 40 の投票所からの情報を入手し、全得票の四割弱の結果を確認した結果、エリックの得票率は 11%弱であり、50%近くを獲得していたオフォス・アサモアはおろか、40%弱を獲得していた NDC の候補者であるジョージ・アジマン・デュア (George Agyemang Duah) にも遠く届かない結果だった。

すでに、オフォス・アサモア陣営は 19 時過ぎには勝利宣言を行っており、情報収集能力の違い、すなわち支持者層の広さの違いも歴然としていた。ラジオでは、各地の投票所の結果が延々と垂れ流されており、そこでも、エリックの敗北が伝えられていた。今回の選挙で肩身の狭い思いをし、この時まで息をひそめていたオフォス・アサモアの支持者たちはここぞとばかりに歓声を上げ、「エリックのカネは底をついた。もう二度と戻って来ることは無い」と騒ぎ立てた。

翌朝、オフォス・アサモアの支持者たちは選挙カーを用いてこれ見よがしにプランカシを行進して回った。このときはまだ大統領選挙の結果は出ておらず、NPP が政権を奪還できるのではないかという期待感もプランカシにはあった。昼過ぎから、どうやら NDC のジョン・マハマが得票率 50%を超えて一発当選したらしいという情報と、NDC の支持者が選挙管理委員会に投票用紙を運ぶ途中に細工をし、選挙結果を改竄したのではないかという情報がラジオを通じてもたらされる。改竄の現場を見た NPP の支持者と NDC の支持者の間で小競り合いも起きたという。土曜日の夜に NDC のジョン・マハマは勝利宣言をし、日曜日に NPP は選挙の結果を受け入れずに最高裁判所に提訴することを決めた²⁰。

²⁰ 本稿の趣旨とはやや逸れるが、2012 年のガーナの大統領選挙の後に起きた混乱について簡単にまとめておこう。12 月 7 日の投票後、選挙管理委員会は 8 日の夜に NDC の大統領候補者ジョン・マハマの勝利を伝えた。大統領選挙の結果はマハマが 5,574,761 票 (50.70%)、アクフォ・アドが 5,248,898 票 (47.74 %) で、国会議員選挙では NDC が 148 議席、NPP が 123 議席、独立候補が 3 議席、PNC (People's National Congress) が 1 議席というものだった。これを受けてマハマはその日のうちに勝利宣言を行った。しかし、翌日の日曜日には、NPP は票が改竄

ジョン・マハマが大統領選挙を一応制したことを知ったエリックの近しい親族は、大声で歓声を上げた。「オフオス・アサモアは確かに国会議員になったが、大統領は NDC なのだからどうせ何もすることはできない」。嫉妬心に満ちた人間的な反応と言えよう。

V スカートとブラウス

カデ選挙区全体とプランカシでの選挙結果をまとめると、表1のようになる。

表1：カデ選挙区とプランカシにおける 2012 年の投票結果²¹

	NPP	NDC	独立候補	その他	合計
カデ選挙区 (大統領選挙)	32,526 (64.90%)	17,040 (33.99%)	— —	556 (1.11%)	50,132 (100%)
カデ選挙区 (国会議員選挙)	27,506 (54.44%)	17,168 (33.98%)	5,552 (10.99%)	296 (0.59%)	50,522 (100%)
プランカシ (大統領選挙)	1,681 (67.11%)	771 (30.78%)	— —	53 (2.12%)	2,505 (100%)
プランカシ (国会議員選挙)	835 (32.94%)	330 (13.02%)	1,362 (53.73%)	8 (0.32%)	2,535 (100%)

これらの数字からは、一つの特徴を見出すことができる。カデ選挙区全体で見た場合、

されたとしてこの選挙結果を受け入れないことを表明 [*Daily Graphic* Dec 10 2012]。NDC と NPP は複数の会合を持ち、特に NPP は支持者に対し暴力的な行為に訴えることが無いように何度も声明を出した [e.g. *Daily Graphic* Dec 11 2012]。11 日には、NPP は選挙結果が改竄されたとして選挙管理委員会を最高裁判所に提訴することを決定。最終的に NPP は、全部で 134 万票に疑義があるとの訴状をまとめた。翌 2013 年 1 月 7 日、マハマの大統領就任式は予定通り行われたが、NPP はこれをボイコットしている。3 月 1 日現在も裁判は進行中である。

大統領選挙に伴う一連の混乱について、NPP の支持者たちは必ずしも冷静というわけではない。「マハマは強盗である」や「薬を使って勝利を奪ったのだからすぐに死ぬだろう」といった最大級の侮蔑の言葉が使用され、また、「喧嘩 (=内戦) すら辞さない」という過激な意見まで飛び出している。一方でテレビでは、子供たちが喧嘩を辞めるように呼びかける映像が流されるなど、事態を収束する動きも活発に行われており、筆者は今後の展開については比較的楽観的な見通しを持っている。しかし、今回の選挙結果に関する係争が、多くのガーナの人々に不和に繋がる負の感情の種を蒔いたことは否定できない事実である。

政治に裁判を利用するという NPP の戦略は彼らにとっては馴染み深いものでもある。政見放送の不平等性について争われた 1993 年の「NPP 対ガーナ国営放送」のケースやデモの届け出の必要性をめぐる 1994 年の「NPP 対ガーナ警察及び司法長官」のケースなどがこれにあたる [六辻 2003]。また、ジョーカーズ達 [Jockers, Kohnert and Nugent 2009] は、2008 年の大統領選挙において NPP による票の改竄があった可能性を指摘している。NPP を糾弾する意図を持っているとも取れる彼らの議論は公平性を欠いている印象もあるが、2012 年の選挙後の混乱について考える上でも有効な議を展開している。

²¹ プランカシの数字は筆者が収集し、手元で集計したもの。カデ選挙区全体の数字はピース FM の web サイト (ghanaelections.peacefmonline.com/pages/2012/constituency/98/) より抜粋。

NDCが大統領選挙と国会議員選挙での得票数がほとんど変わらないのに対し、NPPは大統領選挙に比べて国会議員選挙で大きく票数を落としている。そして、その差に当たる数字を独立候補のエリックが得ている。このことから、エリックの支持者の多くが大統領選挙においてNPPに投票したことが分かる。

プランカシでは、エリックはNPPとNDCの支持者の約半数を味方につけたようである。ただし、エリック陣営の中核は大統領選挙ではNDCに投票しており、それが大統領選挙におけるNDCの票数に多少なりとも貢献している。

ところで、ガーナでは大統領選挙と国会議員選挙という二つの投票機会にそれぞれ異なる政党の成員に投票することを「スカートとブラウス *skirt and blouse*」と呼ぶ。スカートとブラウスはワンピースではないということを意味している。ガーナ南部では、特に女性たちの間で、既製品ではなくオーダーメイドのドレスが好まれる。様々なスタイルのワンピースのドレスがある中に、スカートとブラウスと呼ばれるスタイルがある。スカートとブラウスは二つで一揃いなのだが、ワンピースとは異なり二つに分けることができる。この特徴にちなんで、一人の人間が二つに分かれた投票をすることを「スカートとブラウス」と呼ぶのである²²。

「スカートとブラウス」は一人の投票行動についても指し示しうるが、特定の地域や選挙区に関して言及することもできる概念である。表1で言えば、カデ選挙区全体では二つの選挙でNPPが共に勝利しており、これは「スカートとブラウス」ではない。しかし、プランカシに限って言えば、最多得票を得ている大統領候補と国会議員候補の所属政党が異なっており、これは「スカートとブラウス」と呼ばれる状態である。今回の選挙では、全275の選挙区の1割弱に当たる26の選挙区で「スカートとブラウス」が起きたこともあり、また、「スカートとブラウス」というキャッチーな呼称が用いられていることも手伝って、どこで「スカートとブラウス」が起きたのかということは人々の重要な関心事の一つにもなっている²³。

「スカートとブラウス」が起きた選挙区の結果を分析してみると、この現象が大統領選挙の結果というよりは国会議員選挙の結果に基づいて起きていることがわかる。「スカートとブラウス」が起きた26の選挙区のうち18の選挙区では国会議員の所属する政党が変化している。そのすべての選挙区において大統領選挙の結果は前回と変わっていない。一方で、現職の国会議員が当選したにもかかわらず、大統領選挙の結果が変化したために「スカートとブラウス」状態になっている選挙区は6に留まっている（残りの2つの選挙区では、前回の選挙における「スカートとブラウス」状態が継続している）。また、NDCとNPP

²² 「スカートとブラウス」という明らかにジェンダー化された概念が、非合理的に見える投票行動を指示しているように思えるかもしれない。しかし、人々は、男でもスカートとブラウスをすると考えているし、また、それは必ずしも非合理的な投票とは考えられていない。

²³ 先述したピースFMのwebサイトでも、「スカートとブラウス」の状況をまとめた特設ページが開設されており、人々の関心の高さを裏付けている。

という二大政党の大統領候補がともに、この「スカートとブラウス」をやめるように声明を出していることも [e.g. *Ghana News Agency* Sep 20 2012; *Modern Ghana.com* Oct 1 2012]、「スカートとブラウス」は大統領候補と同じ政党の国会議員を支持しない有権者によって引き起こされると彼らが考えていることが窺える。

ガーナの国政選挙に関する先行研究では、大統領選挙にのみ焦点を当てる傾向が強く、国会議員選挙についての考察やその大統領選挙との関係に注目が集まることはほとんどなかった²⁴。そのため、「スカートとブラウス」という現象の特異性や重要性についても専門家の間ではほとんど議論されてきていない。しかし、この「スカートとブラウス」は、国会議員選挙の行方に無視することのできない影響を与えている。今回の選挙で国会議員の交代は 46 の選挙区で起きているが、国会議員と大統領選挙の結果が共に変化している選挙区はそのうち 13 に留まっており、これは新規のスカートとブラウスの発生数 (18) や前回の選挙で起こったスカートとブラウスの解消数 (15) よりも少ない。このことから、国会議員の議席の変更において、スカートとブラウスが重要な位置を占めていることが分かる。

表 2 : 「スカートとブラウス」における議席獲得状況 (2012)

	議席の変更有り (大統領選の変化なし)	議席の変化なし (大統領選の変化有り)	前回の「スカートと ブラウス」が継続	計
NDC	6	0	1	7
NPP	9	6	0	15
その他	3	0	1	4
計	18	6	2	28

表 3 : 議席の変更と大統領選挙の結果の整理 (2012)

	新しい「スカートとブラウス」の発生 (大統領選の変化なし)	前回の「スカートとブラウス」の解消 (大統領選の変化なし)	議席・大統領選の結果共に変化	計
NDC	6	11	10	27
NPP	9	4	3	16
その他	3	0	0	3
計	18	15	13	46

なぜ人々は「スカートとブラウス」をするのか。答えは様々である。NPP の支持者である 50 代のある男性は今回の選挙で「スカートとブラウス」を行った理由について、先代の

²⁴ 国会議員についてのリンドバーグの論考 [Lindberg 2010] は重要な例外である。

大統領であるアタ・ミルズが 2012 年 7 月に亡くなったことをあげた。もし生きていれば、彼が再び選挙に出ていただろう。だが、彼はそれができなかった。その遺志を引き継いだジョン・マハマにもう四年のチャンスを与えたい。だから、大統領選挙では NDC に投票した。国会議員に関しては、オフォス・アサモアは強い男なので、彼に投票したというのである。

プランカシでは、彼のような理由からスカートとブラウスを行った者は少数派である。多くの人々は大統領選挙では NPP に、国会議員選挙ではエリックに投票している。彼らについては、「スカートとブラウス」を行った理由は分かりやすい。プランカシ出身のエリックが立候補し、多くの支持を集めたからである。所属する政党の無いエリックに投票することは、それだけで「スカートとブラウス」をすることを意味する。そのため、プランカシは特殊な事例であって、ガーナの他の地域や選挙区にそのまま適用できるわけではない。しかし、「スカートとブラウス」について考える材料を提供してくれるものではある。

なぜ NPP を支持していたプランカシの人々はエリックの立候補を歓迎し、彼に投票したのか。エリックの戦略について述べた際に指摘したように、そこには、親族や友人を助けるという論理や二大政党に対する閉塞感もあった。同時に、強く主張されていたのは、現職の国会議員であった NPP のオフォス・アサモアが「私たちに何もくれていない」という不満であった。言うなれば、現職の国会議員に対する批判票が「スカートとブラウス」を引き起こしていたのである。そう考えるならば、「スカートとブラウス」が大統領選挙の結果というよりは、国会議員選挙の結果と深く関わっていることにも説明がつく。

この国会議員に対する不満は同時に利益誘導への期待に基づくものでもあるのだが、興味深いのはこの利益誘導に対する期待が大統領候補者についてはほとんど聞かれなかった点にある²⁵。プランカシの人々は、もしエリックが国会議員になればそれは直接的にプランカシに利益をもたらす（あるいはそうであるべき）と考えていたのに対し、仮に NPP のアクフォ・アドが大統領になったとしても高校が無償化される以上の利益は自分たちにはもたらされないと考えていた。

ここから、より自分たちに近い存在である国会議員に対する直接的な期待と国を代表する大統領に対する期待の微妙な差異を見出すこともできる。「スカートとブラウス」は、異なるタイプの期待を背負う大統領と国会議員の両方を同時に選ぶガーナの国政選挙の必然的な結果なのかもしれない。だとすれば、「スカートとブラウス」は、ガーナの人々の大統領に対する利益誘導の期待の薄さを逆説的に示しているとは言えないだろうか。

²⁵ この背景に、現職のジョン・マハマと NDC 政権の能力に対する一定の評価があったことは否定できない。2008 年に誕生した NDC 政権は汚職問題などで世間を騒がせたものの、停電の回数を減らすなど全体的にはうまくやっていたという感覚を人々に与えていた。

参考文献

Daily Graphic

- Dec 5 2012 'Parties buying votes have no plans for Ghana'.
Dec 6 2012 'Odiike calls on electorate not to sell votes'.
Dec 8 2012 '3000 could not cast vote in Garu Constituency'.
Dec 10 2012 '...But NPP protest'.
Dec 11 2012 'Nana Akufo-Addo urges supporters to remain calm'.
Dec 12 2012 'NPP heads for court'.

Ephson, Emmanuel Benjamin.

- 2009 *Ben Ephson on the 2008 Elections*. Media Graphics & Press Ltd.

Ghana News Agency

- Sep 20 2012 'Don't vote skirt and blouse – President Mahama'.

GOG (Government of Ghana)

- 2011 *Education Sector Performance Report 2011*. Ministry of Education.

Gyimah-Boadi, Emmanuel

- 2009 Another Step Forward for Ghana. *Journal of Democracy* 20(2): 138–152.

浜田 明範

- 2010 「医療費の支払いにおける相互扶助：ガーナ南部における健康保険の受容をめぐって」『文化人類学』75巻3号 pp371–394。
2012 「提喩的想像の多層性：ガーナ南部における「われわれ」の生成」『共在の論理と倫理——家族・民・まなざし的人类学』吉田匡興ら（編）、はる書房、pp51–72。

Jockers, Heinz, Dirk Kohnert and Paul Nugent

- 2010 The Successful Ghana Election 2008: A Convenient Myth? *The Journal of Modern African Studies* 48(1): 95–115

Lindberg, Staffan I.

- 2010 What Accountability Pressures do MPs in Africa Face and How do They Respond?: Evidence from Ghana. *The Journal of Modern African Studies* 48(1): 117–142.

Modern Ghana

- Oct 1 2012 'Nana Addo cautions against 'skirt and blouse' voting'
(<http://www.modernghana.com/news/421053/1/nana-addo-cautions-against-skirt-and-blouse-voting.html> 最終アクセス 2012年12月31日).

Nugent, Paul

- 1999 Living in the Past: Urban, Rural and Ethnic Themes in the 1992 and 1996 Elections in Ghana. *The Journal of Modern African Studies* 37(2): 287–319.

2001a Ethnicity as an Explanatory Factor in the Ghana 2000 Elections. *African Issues* 29 (1&2): 2-7.

2001b Winners, Losers and Also Rans: Money, Moral Authority and Voting Patterns in the Ghana 2000 election. *African Affairs* 100: 405-428.

落合 雄彦

2002 「資料 アフリカにおけるクーデタと選挙の動向：1960-1999年」『敬愛大学国際研究』9号 pp67-79。

六辻 彰二

2003 「ガーナ第四共和制における議会と政府の関係性」『アフリカにおける議会と行政府』（日本国際問題研究所報告書／2003年）pp61-74。

高根務

1993 「ガーナ第四共和制：複数政党制下の一党支配」『アフリカレポート』No.16（1993年3月）pp.6-9。

2001 「2000年ガーナ総選挙：長期政権の平和的交代」『アフリカレポート』No.32（2001年3月）pp.22-27。

2003 「マラウイとガーナの民主化過程」『アフリカ諸国の「民主化」再考：共同研究会中間報告』津田みわ（編）、アジア経済研究所、pp.105-125。

<インターネット上に存在する資料> 2012年3月1日にアクセス確認

The Electoral Commission of Ghana

2012 HOME (<http://results.ec.gov.gh/index.php>)

(2013年2月13日採択決定)